

## 報告 2 法制制度

はじめに

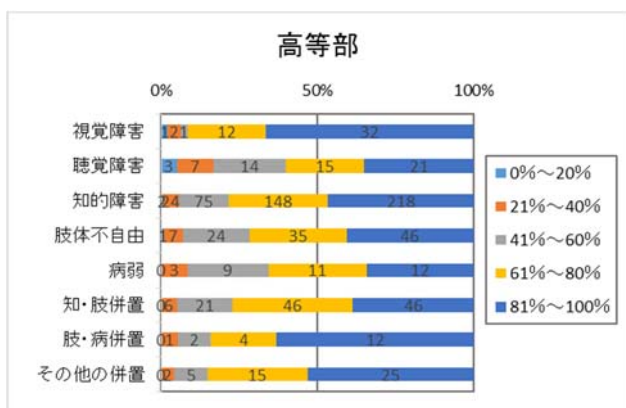
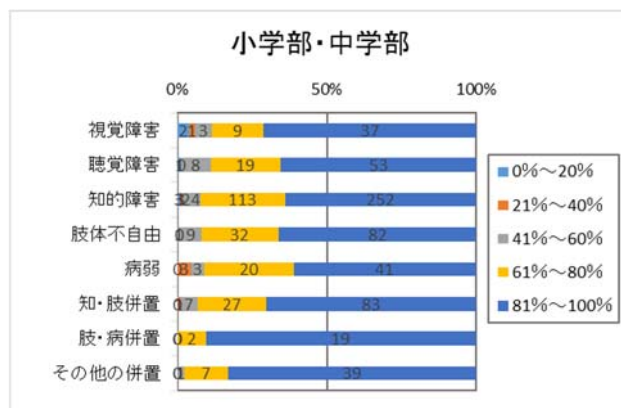
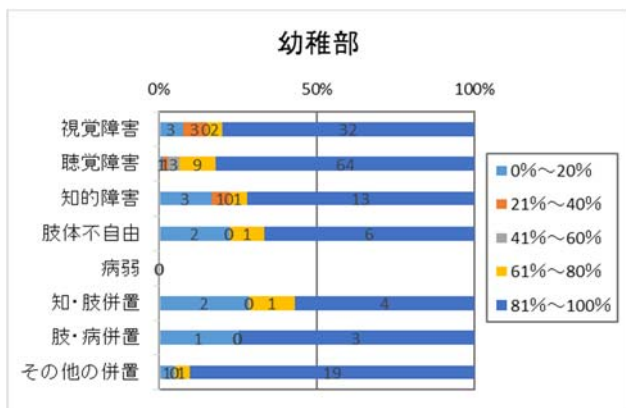
制度や現状把握の観点から各学校に必要な措置などを分析するために設問を設置している

【36】 特別支援学校の免許保有率

	幼稚部					小学部・中学部				
	0%~20%	21%~40%	41%~60%	61%~80%	81%~100%	0%~20%	21%~40%	41%~60%	61%~80%	81%~100%
視覚障害	3	3	0	2	32	2	1	3	9	37
聴覚障害	1	1	3	9	64	1	0	8	19	53
知的障害	3	1	0	1	13	3	3	24	113	252
肢体不自由	2	0	0	1	6	1	0	9	32	82
病弱	0	0	0	0	0	0	3	3	20	41
知・肢併置	2	0	0	1	4	0	1	7	27	83
肢・病併置	1	0	0	0	3	0	0	0	2	19
その他の併置	1	0	0	1	19	0	0	1	7	39

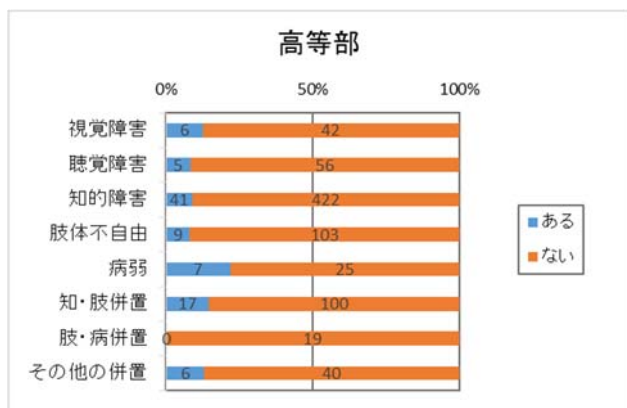
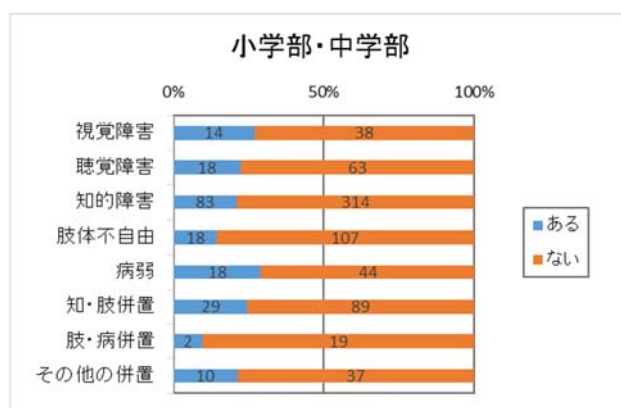
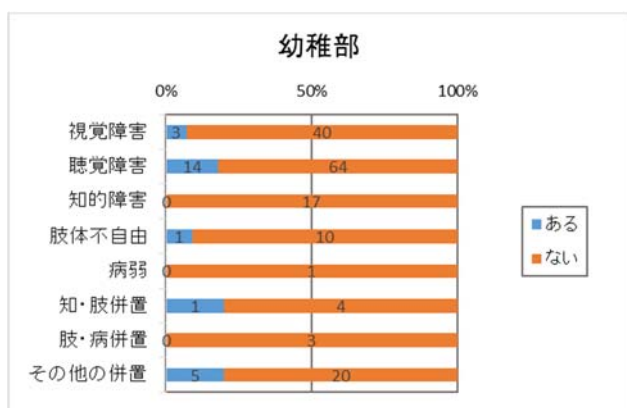
	高等部				
	0%~20%	21%~40%	41%~60%	61%~80%	81%~100%
視覚障害	1	2	1	12	32
聴覚障害	3	7	14	15	21
知的障害	2	24	75	148	218
肢体不自由	1	7	24	35	46
病弱	0	3	9	11	12
知・肢併置	0	6	21	46	46
肢・病併置	0	1	2	4	12
その他の併置	0	2	5	15	25



学年が上がるにつれて保有率が低下しており、種別だと、聴覚障害、病弱がその傾向が強いことが見て取れる。

【37】 就学相談等において学校教育法施行令の一部改正が学校経営に影響がありましたか。

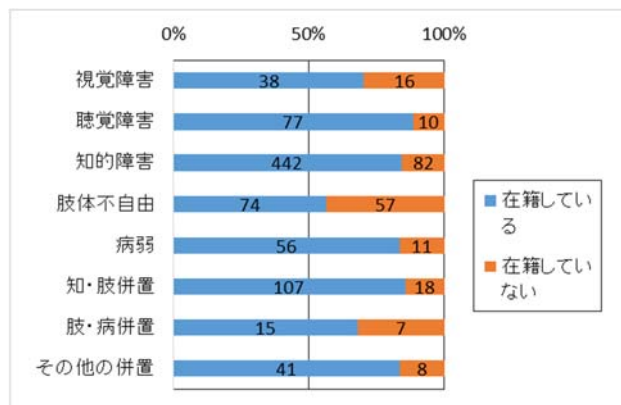
	幼稚部		小学部・中学部		高等部	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
視覚障害	3	40	14	38	6	42
聴覚障害	14	64	18	63	5	56
知的障害	0	17	83	314	41	422
肢体不自由	1	10	18	107	9	103
病弱	0	1	18	44	7	25
知・肢併置	1	4	29	89	17	100
肢・病併置	0	3	2	19	0	19
その他の併置	5	20	10	37	6	40



どの学年、種別でもほとんどの影響がみられない、ということがわかる。

【38】 発達障害と思われる幼児児童生徒の在籍状況

	在籍している	在籍していない
視覚障害	38	16
聴覚障害	77	10
知的障害	442	82
肢体不自由	74	57
病弱	56	11
知・肢併置	107	18
肢・病併置	15	7
その他の併置	41	8



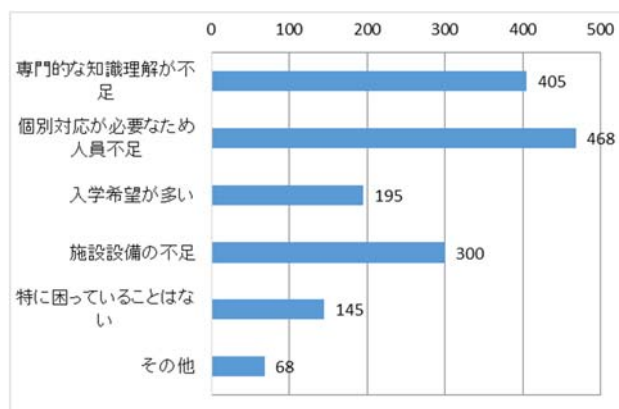
【39】医療機関において発達障害と正式な診断を受けている幼児児童生徒数《半角数字》

視覚障害	97
聴覚障害	194
知的障害	16032
肢体不自由	343
肢・病併置	100
その他の併置	968



【40】発達障害幼児児童生徒への対応で困っていること《複数選択可》

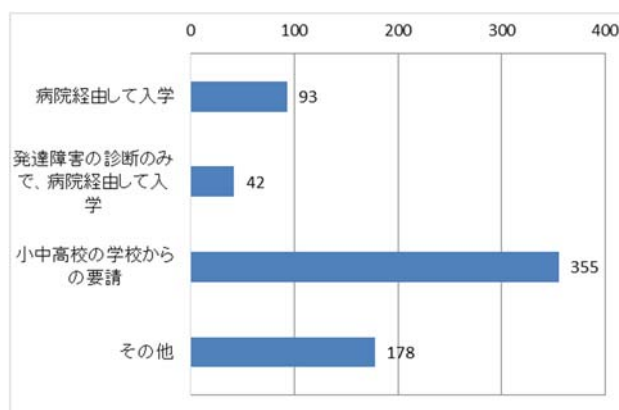
	専門的な知識理解が不足	個別対応が必要なため人員不足	入学希望が多い	施設設備の不足	特に困っていることはない	その他
視覚障害	21	13	1	3	14	4
聴覚障害	44	44	4	8	9	10
知的障害	209	254	135	189	56	34
肢体不自由	34	25	1	12	32	7
病弱	23	30	21	23	5	8
知・肢併置	48	68	25	43	19	4
肢・病併置	12	8	1	3	3	1
その他の併置	14	26	7	19	7	0



専門的な知識を持った人員の不足がどの種別でも問題点として掲げられている。

【41】発達障害の幼児児童生徒の入学までの経緯《複数選択可》

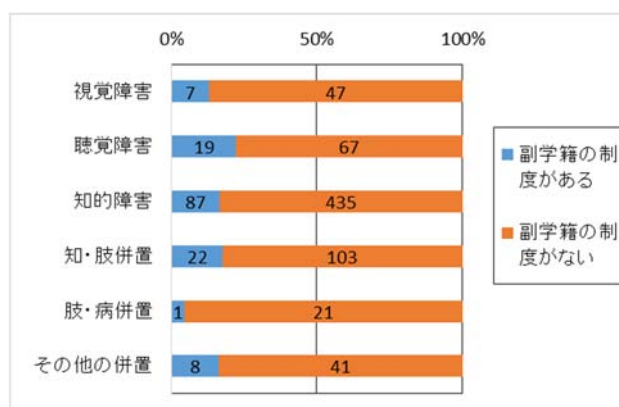
	病院経由して入学	発達障害の診断のみで病院経由して入学	小中高校の学校からの要請	その他
視覚障害	3	1	5	8
聴覚障害	3	1	7	23
知的障害	20	18	230	93
肢体不自由	6	4	11	21
病弱	42	10	18	11
知・肢併置	6	5	59	15
肢・病併置	8	1	4	0
その他の併置	5	2	21	7



種別によって入学経緯に若干のばらつきがあるが、全体で見ると、学校からの要請で入学するケースが多いことがわかる。

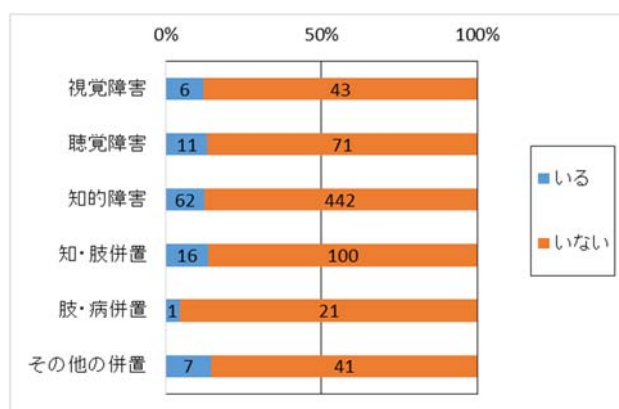
【42】 あなたの県や市は、副学籍等の制度がありますか。

	副学籍の制度がある	副学籍の制度がない
視覚障害	7	47
聴覚障害	19	67
知的障害	87	435
知・肢併置	22	103
肢・病併置	1	21
その他の併置	8	41



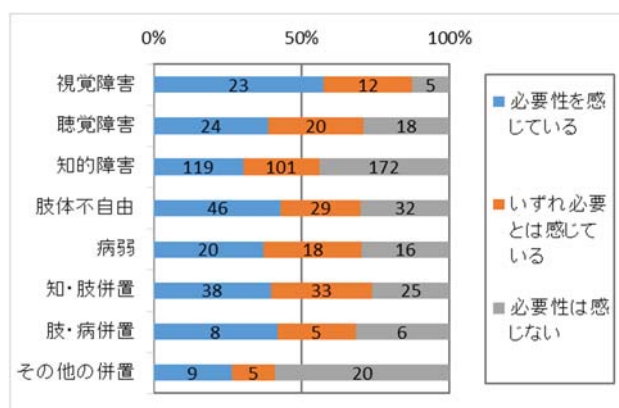
【43】 副学籍等を実施している児童生徒がいますか

	いる	いない
視覚障害	6	43
聴覚障害	11	71
知的障害	62	442
知・肢併置	16	100
肢・病併置	1	21
その他の併置	7	41



【44】 副学籍等の必要性を感じますか。

	必要性を感じている	いずれ必要とは感じている	必要性を感じない
視覚障害	23	12	5
聴覚障害	24	20	18
知的障害	119	101	172
肢体不自由	46	29	32
病弱	20	18	16
知・肢併置	38	33	25
肢・病併置	8	5	6
その他の併置	9	5	20

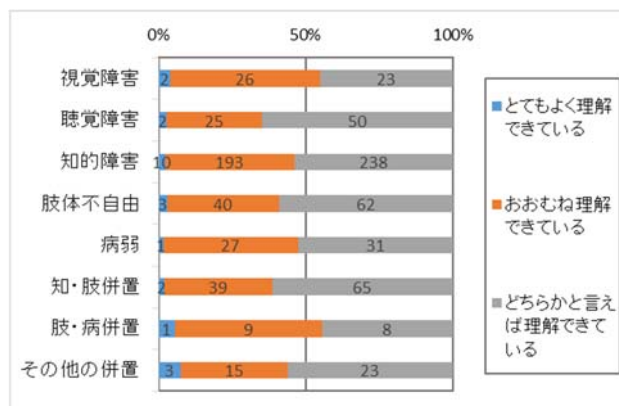


副学籍の制度自体がなく、実施されている学校数も少ないが、過半数以上が必要、あるいはいずれは必要と考えていることがわかる。

【45】 基礎的環境整備や合理的配慮の考え方について教職員の理解はどの程度図られていますか。

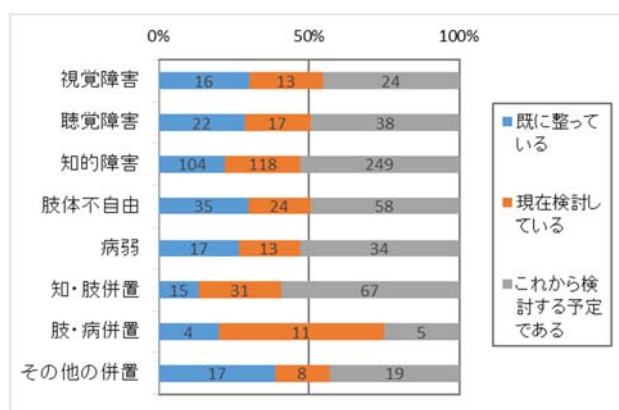
(単一回答)

	とてもよく理解できている	おおむね理解できている	どちらかと言えば理解できている
視覚障害	2	26	23
聴覚障害	2	25	50
知的障害	10	193	238
肢体不自由	3	40	62
病弱	1	27	31
知・肢併置	2	39	65
肢・病併置	1	9	8
その他の併置	3	15	23



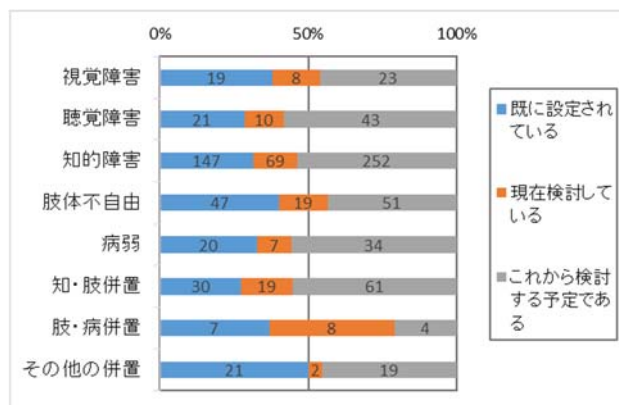
【46】 個別の教育支援計画に「合理的配慮」の内容を記載する様式は整っていますか。(単一回答)

	既に整っている	現在検討している	これから検討する予定である
視覚障害	16	13	24
聴覚障害	22	17	38
知的障害	104	118	249
肢体不自由	35	24	58
病弱	17	13	34
知・肢併置	15	31	67
肢・病併置	4	11	5
その他の併置	17	8	19



【47】 合理的配慮の内容を柔軟に見直すための相談や会議の場は設けられていますか。(単一回答)

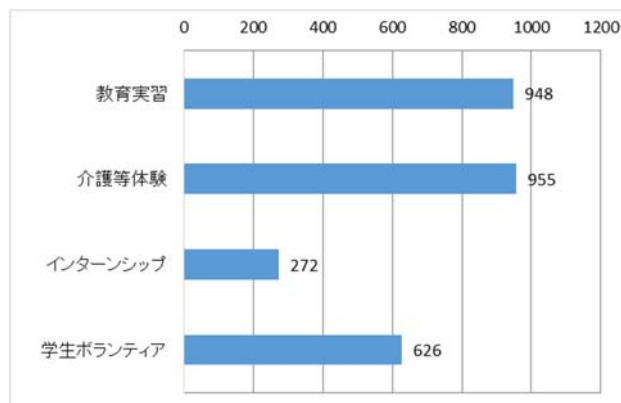
	既に設定されている	現在検討している	これから検討する予定である
視覚障害	19	8	23
聴覚障害	21	10	43
知的障害	147	69	252
肢体不自由	47	19	51
病弱	20	7	34
知・肢併置	30	19	61
肢・病併置	7	8	4
その他の併置	21	2	19



【48】次世代の教員養成に協力するための取組として大学が行う教育実習、介護等体験、インターンシップ、学生ボランティア活動に協力（実際の体験の実施）をしていますか。

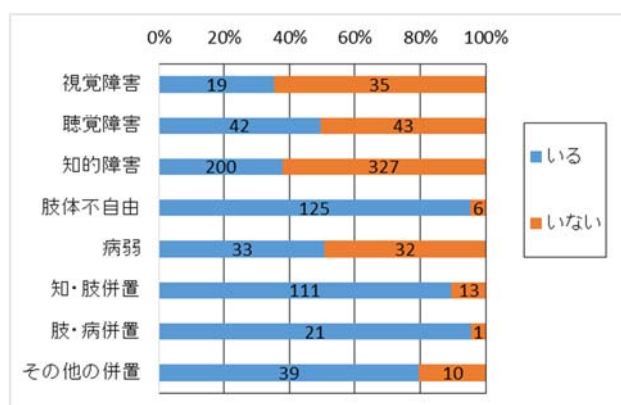
	教育実習	介護等体験	インターンシップ	学生ボランティア
視覚障害	41	54	13	33
聴覚障害	79	84	19	47
知的障害	477	469	134	314
肢体不自由	118	117	33	81
病弱	44	42	9	21
知・肢併置	120	121	43	84
肢・病併置	21	21	8	16
その他の併置	48	47	13	30

「教育実習」「介護等体験」の取り組みは多く行われている。



【49】医療的ケアを必要とする児童生徒の有無（「いる」or「いない」で回答）

	いる	いない
視覚障害	19	35
聴覚障害	42	43
知的障害	200	327
肢体不自由	125	6
病弱	33	32
知・肢併置	111	13
肢・病併置	21	1
その他の併置	39	10



さいごに

副学籍制度や環境整備と学校側のニーズが合っていない、もしくはそのニーズ事態を学校側が認識しきれていない、ということが調査の結果から考察できる。

必要なものは把握できるが、そのための会議体の設置、計画が不十分であることもその原因であると考えられる。